

公益財団法人東京都島しょ振興公社

令和元年度第1回評議員会議事録

- 1 開催日時 令和元年6月26日(水) 10時00分～11時10分
- 2 開催場所 東京都港区海岸一丁目4番15号
島嶼会館2階会議室
- 3 出席者 評議員総数 7名
出席評議員 5名 三辻 利弘 櫻田 昭正 広瀬 久雄
菊池 利光 白井 岩仁
出席理事 1名
理事長(代表理事) 青沼 邦和
- 4 議長選出 櫻田 昭正
- 5 議事録署名人選出 三辻 利弘 菊池 利光

6 議事の経過の要領及びその結果

事務局長より、評議員7名の過半数が出席しており、定款第20条第1項の規定に基づき、評議員会の議案に対する決議は成立する旨を告げた。

次に、出席した評議員の互選により選出された櫻田 昭正氏が議長となり、議事録署名人について、議長は三辻 利弘氏と菊池 利光氏の2名を指名、全員異議なく承認され、両人も承諾した。

(1) 議案第1号 平成30年度事業報告の承認について

議長は、議案第1号を上程し、配付資料により事務局長の説明がなされた後、議長は、これを諮ったところ、原案どおり満場一致で可決された。

(2) 議案第2号 平成30年度決算の承認について

議長は、議案第2号を上程し、配付資料により企画管理課長の説明がなされた後、議長は、これを諮った。

以上の説明に関連して、次の質疑応答があった。

(広瀬評議員) 7ページ1の(1)特産品推進事業について、30年度予算559万6,000円のうち執行額が67万6,848円、執行率が12.1%しかないが理由として何が挙げられるか。

(石田事務局長) 特産品開発事業において、29年度は新たな製品の発売があり、開発の初期費用に対する補助の執行があった。30年度は、小笠原パッションフルーツのチューハイ用シロップの試作品開発を行ったが、30年度中には製品化に至っていないため、開発の初期費用に対する補助金の執行がなかった。

(広瀬評議員) 2年に跨っている事業があるということか。予算としては繰越の手續

きをしているということか。

(荒井企画管理課長) 繰越しはしていない。しかし、次の予算に必要な経費を見込み計上している。

(石田事務局長) 試作品開発は順調に進んでおり、8月頃に製品化を予定している。

(広瀬評議員) 同じ事業を継続していくということか。前年度は土地買収等を行わなかったのか。

(石田事務局長) 29年度は、試作品開発を行う前の段階として、各島の製品の調査等を行っており、旅費なども発生したが、30年度はそのあたりがなかったため、前年度と比べ、執行額が少なくなった。

(広瀬評議員) 8ページの(2)地域振興補助事業の平成30年度予算執行率が23.8%とあるがこちらも何か理由として挙げられるか。

(荒井企画管理課長) こちらは年3回で地域振興補助の募集をかけているが、昨年度は1度も予算の執行がなかったためである。

(広瀬評議員) 執行がなかったということは、島からの応募がなかったということか。

(荒井企画管理課長) 申請はあったが、採択されなかった。

(広瀬評議員) 事業を行い申請を受け付けたが不採択と判断をし、執行をしなかったとの一連の流れを説明していただきたいかった。

(石田事務局長) 今後、改善をしたい。

審議の結果、原案どおり満場一致で承認された。

(3) 議案第3号 評議員、理事及び監事の選任について

議長は、議案第3号を上程し、配布資料により事務局長の説明がなされた後、議長は、これを諮ったところ、原案どおり満場一致で承認された。

7 報告事項

(1) 第5次中期実施計画の改訂及び計画に基づく「事業の見直し・検証」に係る取組について

企画管理課長より、標記案件について説明がなされ、次の質疑応答があった。

(広瀬評議員) ヘリ・コンピューター事業においてキャンセル率が問題となり6月1日から見直しを行ったが、現状は予約をして搭乗日を変更する毎にいったん運賃を払い戻して新しく予約を取り直すかたちである。例えばキャンセルをした1ヶ月以内であれば払い戻しをすることなく、予約を取り直せるよう検討をしていただきたい。

(荒井企画管理課長) キャンセル実態を調査・確認し、皆さんの要望に応えられるものであれば、事業者と連携をとり、改善をしていきたい。

(石田事務局長) 6月1日にキャンセル料を見直したばかりであるので、状況も鑑みて改めて検討していきたい。

(櫻田評議員) 調査し、検討をしていただきたい。

(2) 財産運用規程及び財産運用基準の改正について

企画管理課長より、標記案件について説明がなされた。

- (3) 公益財団法人東京都島しょ振興公社における内部統制等に係る自己点検結果について
企画管理課長より、標記委員会について説明がなされた。
- (4) 令和元年度第1回公社運営検討委員会の開催結果について
企画管理課長より、標記案件について説明がなされ、次の質疑応答があった。
(広瀬評議員) ヘリ・コンピューターで機体の経年劣化という話があったが、東京都島嶼町村会にも影響が出てくると思われるので、連携を取っていただきたい。また、機体更新に向けて全体で動く形をとり町村長一丸となって、関係機関に要望をしていく形でお願いをしたい。
(石田事務局長) こちらでも積極的に連携を図って対応をしていきたい。
(櫻田評議員) 東京都島嶼町村会とも連携をし、進めていただきたい。
- (5) その他について
次の質疑応答があった。
(白井評議員) 地域振興補助事業について、広瀬評議員からも発言があったが、執行率が低いところで、各島の観光協会は申請対象となっているが、東京諸島観光連盟はどうか。また、こういった事業において広域連携のカテゴリーがあったりするが、例えば2つの島に跨るような広域連携事業は対象となるのか。
(荒井企画管理課長) 2つの島が跨るというのはある。主な事務所があるところに代表で申請をいただくような形となる。東京諸島観光連盟については島の事業者が対象となっているため、当てはまらないかもしれない。
(白井評議員) 2つ以上であれば3つや4つでも広域連携はありえるということか。
(荒井企画管理課長) 広域連携はありえる。
(白井評議員) そうしたものを東京諸島観光連盟が代行するというのはいえるか。それとも各島ごとに申請をするような形か。
(荒井企画管理課長) 島の各町村を通じて申請を受けている。
(白井評議員) その場合は、例えば広域連携事業として申請をすればいいか。
(荒井企画管理課長) 申請の段階で調整をさせていただく。申請があがった段階で、要綱と照らし合わせ検討したい。
(白井評議員) 現在の執行率だと非常にもったいなく感じる。各島も連携して行いたい事業があるかと思うため、1島ずつの申請でない方法も検討していただきたく、東京諸島観光連盟の事務局へ回答をいただきたい。

議長は、以上をもって議事の全部の報告を終了した旨を述べ、午前11時10分閉会を宣し、解散した。

上記事項の経過の要領及びその結果を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

令和元年8月9日

公益財団法人東京都島しょ振興公社 令和元年度第1回評議員会

議事録作成者
議長

櫻田 昭正

評議員

三辻 利弘

評議員

南 利光